独立行政法人 国立病院機構 熊本医療センター

Hospital Guide

National Hospital Organization Kumamoto Medical Center

当院は、明治４年に創立しました、日本で最も古い国立病院のひとつでございます。神風連の乱（明治９年）や西南の役（明治10年）では、すでに現在の地で負傷兵の治療を行いました。
154年経った今も変わらず、私たちは、病気で苦しまれている方々、怪我でお困りの方々を受け入れています。
これから先も、皆さまに頼られる病院として、総力を挙げて地域医療に務めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

国立病院機構　熊本医療センター院長　**髙橋　毅**

基　本　理　念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します

運　営　方　針

1．政策医療の推進
2．救急医療とがん診療の推進
3．開放型病院による医療連携の推進
4．教育・研修・臨床研究の推進
5．健全経営

P2　基本理念・運営方針
P4　診療科
P6　救命救急医療
P8　がん診療
P10　地域医療連携・医療福祉相談
P12　チーム医療
P14　良質で安全な医療の提供
P16　最新の知識・医療技術と礼節
P18　教育・研修・臨床研究・国際医療協力の推進
P20　外来新館紹介
P22　国立病院機構
P23　病院概要
P24　歴史
P26　年間行事
P26　開かれた病院を目指して
P27　福利厚生

診療科

総合診療科
血液内科
腫瘍内科
糖尿病・内分泌内科
呼吸器内科
感染症内科
腎臓内科
消化器内科
循環器内科
心臓血管外科
脳神経外科
脳神経内科

眼科
耳鼻いんこう科
皮膚科
放射線科
放射線治療科
救急科
病理診断科
外科
頭頸部外科
呼吸器外科
小児外科
整形外科

形成外科
精神科
リウマチ科
小児科
泌尿器科
産婦人科
リハビリテーション科
麻酔科
歯科
歯科口腔外科

全34科・部

私たちは、救急医療とがん診療を２本の大きな柱とし、
すべての疾患で、皆さまから頼られる病院をめざして、
職員全員で努力していきます。

5,824件

救急搬送自動車及びヘリコプターの件数
（2023年1月～12月）

全職員をあげて
24時間365日断らない救命救急医療

日本救急医学会指導医指定施設

2016年1月に熊本県で初となる日本救急医学会指導医指定施設に指定されました。

施設認定

日本救急医学会指導医指定施設／日本専門医機構救急科専門医プログラム基幹医療施設／日本集中治療医学会専門医研修施設
日本熱傷学会専門医研修施設／日本高気圧潜水医学会認定施設／日本外傷学会専門医研修施設
日本急性血液浄化学会認定施設／日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設／日本血栓止血学会認定施設
病院機能評価 救急医療機能 Ver. 2

国立病院機構熊本医療センター 救命救急センター

「24 時間 365 日断らない救命救急医療を目指す」ことを救命救急センターの基本理念に掲げ、全職員を挙げて救命救急医療に取り組んでおります。
年間約 1 万 3000 人の救急患者さまが受診されますが、半分にあたる約 6000 人は救急車やヘリコプターで来院されます。当院の基本方針の一つは「断らない救急医療」ですが、これを実践するために、病院の全ての職員が救急医療を担っております。このような実績を受け、2008 年に人事院総裁賞を、2012 年に救急医療功労者厚生労働大臣表彰をいただいております。また 2017 年度には髙橋毅院長が救急功労者知事表彰・総務大臣表彰をいただきました。
当院はほぼすべての診療科を有しておりますので、幅広く患者さまを受け入れております。特に精神科病床を有する県内唯一の救命救急センターですので、精神科における身体合併症や自傷関連の患者さまが非常に多いのが特色の一つです。
また、熊本県ヘリ救急医療体制を担い、熊本県地域救急医療体制支援病院・熊本県防災消防ヘリ「ひばり」の支援病院として、フライトドクターが待機しております。
今後とも「救急医療の拠点」として機能していけるよう急性期医療・救急医療に病院全体で取り組んで参ります。

災害拠点病院（地域災害拠点病院）

当院は 2009 年から災害拠点病院に指定されており、DMAT を３チーム保有する DMAT 指定医療機関です。
これまで東日本大震災、熊本地震、令和２年７月豪雨で、超急性期に DMAT を被災地へ派遣しています。特に熊本地震では、被災地内災害拠点病院として、多くの DMAT や他の医療チームからの支援を受け入れ、病院を挙げて災害医療に尽力し、県庁医療救護調整本部へ災害医療コーディネーターの派遣も行いました。令和２年７月豪雨においては、県南保健医療調整本部へ統括 DMAT を含むチームを派遣し、当院では初となる DPAT（災害派遣精神医療チーム）１チームを被災地へ派遣しています。
令和６年能登半島地震では国立病院機構医療班として２チームを被災地へ派遣しました。

救命救急センター外来（４階）

洗浄室　初療室２室（４床）　経過観察室（11 床）
手術室　感染症室　Walk in 患者診察室３室
Walk in 患者処置・経過観察室

救命救急センター病棟（５階）

50床　※災害時 100床対応
　救命病棟　44 床　　ICU　６床
　　＊手術室、高気圧酸素治療室（第一種）が隣接
　　＊高度医療機器
　　体温管理装置（体表・血管内）、経皮的心肺補助装置（ECMO）、大動脈内バルーンポンピング（IABP）、持続血液ろ過透析（CHDF）、血液吸着（DHP）、血漿交換（PE）、人工すい臓、熱傷ベッドなど

院内ヘリポート（６階　病院正面玄関上）

病院救急車

重症患者搬送を行うドクターカー、一般救急患者の搬送を行う患者搬送車、重症患者搬送と災害時出動を行う大型の災害支援車の３台の病院救急車を運用しております。

熊本医療センターのがん診療ビジョン

「ヒトにやさしいがん医療」

1. 専門性の高い最先端医療

すべての診療科が協力し、各科の専門性の高い最先端のがん診療を提供します。

2. 安全で安心できる医療

すべての種類や進行状況のがんに対して、最良ながん診療を提供します。
がんの症状や治療の副作用で苦しまない医療を提供します。

3. チーム医療

病気や身体面だけでなく、心理・精神面、生活・経済など社会面、人間関係・自分らしさ・人生の価値などの面、多方向から多職種の専門スタッフが支援します。

最適な治療計画のもと、
最新の治療を、最良な順番で、集学的に提供します。

集学的治療
（手術、放射線治療、抗がん剤、分子標的薬、免疫療法、ゲノム医療、緩和ケア）

手術

最新の機器が設備された手術室で最先端の医療技術を駆使し、極力身体に負担のかからない手術を行っています。専門スタッフが毎日検討会を開き、術後管理を行っています。

化学療法

西日本最高級に設備された「がん総合医療センター」を中心に専門スタッフが化学療法を行っており、施行件数は年間 5000 件で、さらに増加しています。

放射線治療

県内に先駆けて 2021 年 10 月より最新鋭の高精度放射線治療装置トゥルービーム（バリアン社）を導入、すべてのがんに対して超高精度の放射線治療を行っています。前立腺がんに対する低侵襲治療であるブラキセラピーも行っています。

緩和ケア

「がんで苦しまない」を目標に、腫瘍内科、放射線科、歯科、看護部、薬剤部、栄養科、リハビリテーション科、公認心理師、医療相談室のメンバーからなる「緩和ケアセンター」を中心に緩和ケアチームを組織して全病院の患者を対象に最良の緩和ケアが提供できるよう毎日活動しています。

地域がん診療連携拠点病院　－理想的ながん診療を目指して－

2020 年３月新館に開業した「がん総合医療センター」においてすべてのがん種、すべての病状に最良のがん診療（手術、放射線治療、化学療法、緩和ケア、相談支援）が外来・入院で提供できるように管理する体制が整備されました。腫瘍内科を中心に、外科、消化器内科、泌尿器科、婦人科、耳鼻咽喉科など多くの診療科と密に話し合いがん診療を行っています。血液内科にも県内外から多くの血液腫瘍の患者さんが受診されています。県内最初の骨髄バンク認定施設として造血幹細胞移植に従事しており、血液がんの領域において日本でも有数の実績を上げています。

地域医療連携・医療福祉相談

絆を大切にしています

地域医療連携室は地域の医療機関、かかりつけ医との連携を深め、患者さまが安心して治療を受けられる医療・福祉の分野におけるサポートを行っています

地域医療連携センター長
菊川 浩明
（きくかわ ひろあき）

副地域医療連携センター長
冨高 悦司
（とみたか えつし）

すべての診療において「24 時間 365 日断らない救命救急医療」をモットーに病院全体で取り組んでいます。その実現・継続に必要なことは、前方連携･後方連携･相談支援を含む医療連携であり、その役割の中心を担うのが地域医療連携センターです。

1．退院調整・転院調整
2．医療・介護・福祉の総合相談
3．開放型病院に関する事
4．広報誌の発行
5．地域医療連携システム　「りんどう医療ネットワーク」
　※「くまもとメディカルネットワーク」にも参加しています
6．セカンドオピニオン外来
7．患者さまの紹介

患者さま一人ひとりが安心して治療に専念できるように共に考え解決をお手伝いします

当院では救急車で搬送される患者さまも少なくはありません。病気やけがをすると、健康な時になかったような心配事が生じることがあります。その問題について、患者さまやご家族とソーシャルワーカー・看護師が共に考え解決をお手伝いします。

地域医療支援病院に承認されております

平成 14 年に 4 月 1 日に、地域医療支援病院の施設として県から承認（全国で42番目、国立病院で初めて）されました。

・紹介患者に対する医療提供
・医療機器の共同利用の実施
・救急医療の提供
・地域の医療従事者に対する研修の実施

地域医療を担うかかりつけ医を支援する能力を備え、さらに地域医療の確保を図る病院に相応しい構造設備等を有する病院です。良質で安全な医療の提供を行っていくことで地域に根ざし、地域医療に貢献できる病院を目指してまいります。

チーム医療

一人の患者さまに対して、
複数のメディカルスタッフ（医療専門職）が連携して、
治療やケアにあたります

チーム医療で情報共有し　みんなの愛で救います

専門性を活かした８つの医療チームが活動しています
それぞれのチームが回診（ラウンド）し、患者さまへ積極的に関わります

ＮＳＴ（栄養サポートチーム）

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士から構成され、栄養問題のある患者さまを中心に回診し、問題点をアセスメントして対策をたてています。また、必要に応じて摂食・嚥下対策チーム、褥瘡対策チーム等と連携して総合的な治療を目指しています。

褥瘡対策チーム

皮膚科医師、認定看護師、栄養士が中心となり、発生状況の把握、褥瘡予防、褥瘡治療の検討などを行います。
リンクナースとともに褥瘡発生予防や褥瘡ケアに取り組んでいます。

院内感染対策チーム

医師（ICD を含む）、看護師（感染管理認定看護師）、感染制御認定臨床微生物検査技師、薬剤師、事務職で構成されています。実動部隊として感染症発生状況の把握、治療・対策の助言、また教育・啓発を行うことで、医療関連感染の低減を目指しています。

ＲＳＴ（呼吸ケアサポートチーム）

医師、臨床工学技士、理学療法士、看護師（救急看護認定看護師、集中ケア認定看護師）で構成されています。当院に入院されている人工呼吸器装着患者さまを対象とし、安全管理面や早期呼吸リハビリテーションへの介入を行っています。

緩和ケアチーム

がんと診断された時から、患者さま、ご家族の皆さまの身体や心のつらさ、生活上の不安等に対して、安心して治療や療養を受けられるように支援するためのチームです。
チームメンバーは、腫瘍内科、放射線科、歯科、看護部、薬剤部、栄養科、リハビリテーション科、公認心理師、医療相談室で構成されています。

NST 栄養サポートチームの回診の様子

摂食嚥下チーム

病棟での活動が中心です。「口腔ケアを充実させ、安全に経口摂取を行うこと」を目的として、口腔内を含む摂食嚥下機能の評価を行っています。
メンバーは歯科医師、看護師（摂食・嚥下障害看護認定看護師を含む）、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士で構成され、定期的に学習会、研修会を開き、知識の向上と実践につなげることを目標としています。

精神科リエゾンチーム

平成 29 年５月より活動が開始となった新しいチームです。
精神科医、認知症看護認定看護師、臨床心理士、精神保健福祉士で構成されたチームです。入院患者さまの精神的問題に対して、医師や看護師と協働し、患者さまへ精神的ケアを行います。そして普段から患者さまの精神面を支えている医療スタッフのサポートをしています。

排尿ケアチーム

「入院患者さまの尿道留置カテーテルを１日でも早く抜去し、尿路感染を防止するとともに排尿自立の方向に導くこと」を目的に排尿自立の指導を行っています。メンバーは泌尿器科医師、認定看護師、病棟リンクナース、理学療法士から成り、週１回のチームによるラウンドを実施しています。

良質で安全な医療の提供

1,190 件

（2023年度　迅速対応チーム介入件数）

266 件

（2023年度　介入依頼件数）

患者さまの安心のために

迅速対応システム（rapid response system：RRS）は、患者さまの急な病状の悪化を未然に防ぐため、迅速に対応する仕組みです。迅速対応チーム（rapid response team：RRT）のメンバーは、救急医療や集中治療に精通した専門医や看護師により構成されています。

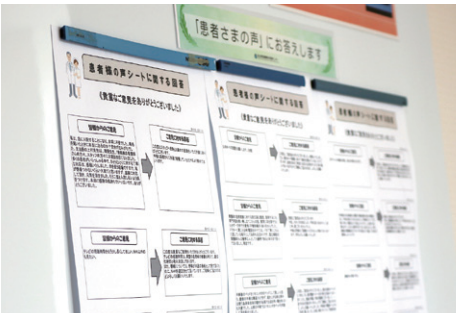
血圧や体温、心拍数、呼吸数などの数値から算出された早期警戒スコアを監視し、必要な患者さまのもとに迅速対応チームが赴き、担当している医師や看護師と共に早期介入を開始します。また、病棟からの介入依頼にも対応しており、総介入数のうち、約２割は病棟からの相談です。

患者さまに寄り添い　愛される病院を目指します

熊本医療センターでは、良質で安全な医療の提供を実現するために、
患者さまの目線に立ったサービスの提供に努めています

「医療安全・感染管理」

良質で安全な医療の提供のために、院内で起きたインシデント事例の再発防止に向け、システム改善やマニュアルを遵守した行動を徹底するように多職種でカンファレンスしています。
院内感染対策チーム（ICT）を中心にタイムリーに介入し、現場の教育、啓発を行っています。



「患者さまの声シート」

ご来院された皆さまから幅広くご意見をいただく場として「患者さまの声シート」を各階に提示しています。いただいたご意見は、毎週とりまとめ、報告し、改善策を検討し対応しております。

「患者さま満足度調査」

毎年、入院・外来の患者さまにご協力いただき、「患者様満足度調査」を実施しております。
「人」に関する項目は同規模の病院より群を抜いて点数が高く、これも接遇研修を行う等、職員の接遇力向上に取り組んだ結果の現れだと思われます。引き続きサービス向上に取り組んでいきます。

「病院機能評価」

当院では「病院機能評価」を平成 30 年 9 月に受審し、平成 31 年 1 月 4 日付で一般病院 2＜ 3 rdG：Ver.2.0> 及び付加機能 救急医療機能 Ver.2.0 の認定証をいただきました。
平成 26 年の受審より、当院にとっては初めての更新となりましたが、一年かけてケアプロセスを磨き上げ、私達が最も力を入れている、救急医療、安全管理、感染管理について高い評価を受けました。
病院機能評価の本質は「改善プログラム」です。職場の問題を定期的に評価し、今後も改善のために定期的な取り組みを継続、より良質で安全な医療を目指していきたいと思います。

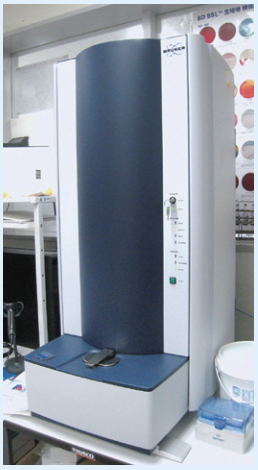
病院機能評価＜3rdG:Ver.2.0＞
機能種別：一般病院

付加機能評価
（救急医療機能 Ver.2.0）

最新の知識・医療技術と礼節

最新の施設と設備を活用し
専門性の高い医療を提供します

泌尿器科：腎凍結療法
（クライオセラピー：Cryotherapy）
腎臓がんの腫瘍を凍結してがん細胞を破壊する治療装置
身体への負担が少ない低侵襲治療



臨床検査科：MALDI Biotyper
最新型質量分析計

血液浄化センター 20 床

臨床検査科
超音波検査センター

薬剤部　注射薬自動払い出しシステム
（注射薬ピッキングマシーン）

画像診断・治療センター

血管撮影装置

MRI 装置　3テスラ

MRI 装置　1.5 テスラ

CT装置 256列 MDCT(デュアルエナジー)

CT装置 128列 MDCT（デュアルエナジー）

放射線治療装置

核医学検査　SPECT 装置

トモシンセシス機能付き乳房撮影装置

教育・研修・臨床研究・国際医療協力の推進

30,404名

2023年度研修センター利用者数

これからも地域の中核病院としての責務を果たすとともに、教育、研修、臨床研修、研究国際医療協力の推進にも力をいれていきます

「地域医療研修センター」

職員の教育研修では、特に良質で安全な医療を目指すために、頻回に医療安全研修会を開いています。
また、一般の医学研修は熊本県・市医師会などと協力して、医師をはじめ各職種対象の生涯教育研修を行っており、延べ人数で年間約４万３百人の方々が利用されています。

「臨床研究部・治験センター」

当院には臨床研究部があります。臨床研究および治験を積極的に行うところが一般の病院と大きく異なるところです。研究のための予算を配備し、熊本大学院医学教育部との連携大学院も有しており、熊本大学院の指導の下に、当院で働きながら博士号をとることができます。今までに５名が博士号を取得しています。

「熊本市救急ワークステーション」（2013年４月開設）

救急ワークステーションは、救急隊員などの生涯教育体制の創出、プレホスピタルケアの充実と救命率の向上、災害医療における関係機関との連携の強化を主な目的として、熊本市と市内の３救命救急センターにより設置されました。
当院には毎週木曜日と金曜日に熊本市北消防署・西消防署・中央消防署より日替わりで救急小隊が派遣されています。

救急医療トレーニングセンター　研修内容

1. 外傷初期診療トレーニングプログラム
2. 救急蘇生法トレーニングプログラム
3. 腹腔鏡手術トレーニングプログラム
4. 超音波検査トレーニングプログラム
5. 内視鏡検査トレーニングプログラム
6. 血管内治療トレーニングプログラム
7. 基本的手技・基本的臨床能力トレーニングプログラム
8. 精神科救急トレーニングプログラム
9. シミュレーション指導者研修プログラム

「スキルアップラボセンター」

救急医療トレーニングセンターが 2013 年４月に開設され、院内外の医療関係者の救急医療に関する教育のために活用されてきました。2020 年３月には新館６階にスキルアップラボセンターがオープンしました。より活発なシミュレーショントレーニングを行える環境となっております。

国際医療協力

「JICA との国際医療協力」

令和元年度、「重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実地疫学（管理者向け）」コースでの院長表敬訪問の様子。

30 年以上の長きにわたる当院の国際医療協力活動は、WHO の天然痘撲滅プロジェクトリーダーであり、1980 年に天然痘撲滅宣言を行った蟻田功名誉院長の時代より受け継がれています。JICA（国際協力機構）とのコラボレーションによる課題別研修のデザイン、マネジメントを行い、これまで世界 122 か国、およそ 1,620 人の研修生を受け入れ、全国医療機関でもトップクラスにあります。また、第３国研修への講師派遣等も行ってまいりました。引き続き、こうした国際医療協力・国際貢献活動を継続してまいります。

臨床研修病院

１学年の研修医枠は医科 19 名、歯科２名であり、連携病院からの研修医を含めて 40 名以上の研修医が一緒に学んでいます。県下では最多の研修医を受け入れています。

シミュレーション研修の様子（左：PICC 研修、右：縫合研修）
研修医の先生方のために多数のシミュレーション研修を実施しており、各診療科医師の指導のもとで十分なトレーニングを行うことができます。

1．総合病院であり、豊富な臨床症例を経験できます
2．年間 5,300 台を超える救急車搬入、月 7-8 例のドクターヘリ・災害ヘリ受け入れ実績を持つ救命救急センターでクリティカルケア、プライマリケアを研修できます
3．各種医用シミュレーターをそろえており、効果的なスキルトレーニングができます
4．EBM 教育に積極的に取り組んでいます
5．学会発表や論文作成ができるようサポート体制を整えています
6．研修終了後には当院での専攻医プログラムが策定された科において、継続して勤務も可能です

「看護師特定行為研修」

当院では、2019 年２月に、熊本県下初の看護師特定行為研修機関の指定を受け研修を開始しています。この研修では、地域医療および高度医療の現場において必要とされる技術を主に、タイムリーで迅速な対応ができる看護師の育成を目標とします。看護師として、「治療」と「生活」の両面から支え、患者さまの早期在宅復帰を目指します。

「リソースナース」（診療看護師３名、専門看護師１名、認定看護師 18 名、特定行為研修修了生８名）

看護部では良質な看護の提供とキャリアアップのために、当院に必要な分野の資格取得者の増員を図っています。診療看護師（JNP）は、国立病院機構で使用している呼称で「特定の医行為を実施することができる看護職」です。臨床看護経験で培った基盤を元に病態や治療経過等の評価を行い、医師や他職種と連携を図りながら、患者さまの QOL 向上に必要とされる介入を総合的、継続的にフォローをしていく看護職です。（R6.4.1 現在）

- 診療看護師……３名
- 急性・重症患者看護専門看護師……１名
- 認定看護管理者……２名
- 救急看護認定看護師……３名
- 集中ケア認定看護師……２名
- クリティカルケア認定看護師……２名
- 摂食・嚥下障害看護認定看護師……１名
- 皮膚・排泄ケア認定看護師……２名
- 感染管理認定看護師……３名
- がん性疼痛看護認定看護師……１名
- がん放射線療法看護認定看護師……１名
- がん化学療法看護認定看護師……１名
- 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師…１名
- 透析看護認定看護師……１名
- 特定行為研修修了生……８名

外来新館紹介

2020年３月より新館外来がオープンしました。各フロアの施設を紹介します。
中でも７Ｆ展望レストランでは熊本城を見下ろす絶景の食事スポットとなっております。

3F 売店（ローソン）

4F カフェ（ドトール）

4F 入院支援室

4F 総合医療センター

4F 小児科

5F 化学療法センター

6F スキルアップラボセンター

7F 展望レストラン

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

私たち国立病院機構は
国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために
たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに
患者さんの目線に立って懇切丁寧に医療を提供し
質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

全国に 140 病院、日本最大の病院グループです。

国民の健康を守るため、高度先進的な医療や災害、難病等への医療など、
国として取り組まなければ政策医療を担うと共に地域のニーズに応じた
医療を展開し、地域包括ケアシステムの構築に貢献しています。

病院数
140病院

病床数
49,925床
令和5年4月1日現在

職員数
約64,000名
令和5年4月1日現在

国立病院機構
熊本医療センター

National Hospital Organization
Kumamoto Medical Center

病院概要

【病床数】

総数	550 床
一般病床	500 床
精神病床	50 床

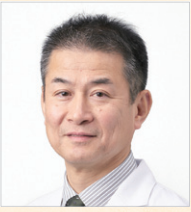
【職員数】（2024年 4月1日現在）

		1,440 人
〈内訳〉	常勤職員	1,012 人
	期間職員	55 人
	非常勤職員	181 人
	その他	192 人
医師		171 人
看護師		783 人

【特殊機能】

エイズ拠点病院／救命救急センター／救急告示病院／病院群輪番制病院
災害拠点病院（地域災害医療センター）／地域がん診療連携拠点病院
精神科救急医療施設／開放型病院／地域医療支援病院／へき地中核病院
臨床研修指定病院／臨床修練指定病院／都道府県腎移植施設
重症難病患者入院施設確保事業協力病院／理学療法施設／臨床研究部
腎センター／骨髄移植実施施設／難病（腎）関連施設
地域医療研修センター／国際医療協力基幹施設／長寿医療基幹施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
応急入院指定病院／熊本県地域救急医療体制支援病院
乳房再建インプラント実施施設／日本高気圧環境・潜水医学会認定病院

幹部職員



副院長
日髙 道弘
（ひだか みちひろ）

副院長
宮成 信友
（みやなり のぶとも）

臨床研究部長
富田 正郎
（とみた まさお）

統括診療部長
菊川 浩明
（きくかわ ひろあき）

事務部長
牧野 功
（まきの いさお）

看護部長
堤 令子
（つつみ れいこ）

薬剤部長
湊本 康則
（みなもと やすのり）

教育研修部長
瀧 賢一郎
（たき けんいちろう）

診療部長（診療報酬）
田山 信至
（たやま しんじ）

診療部長（安全衛生）
髙木 みか
（たかき みか）

診療部長（患者サービス）
中島 健
（なかしま たけし）

診療部長（病院管理運営）
福元 哲也
（ふくもと てつや）

診療部長（病院管理運営）
立山 雅邦
（たてやま まさくに）

診療部長（医療安全）
櫻井 聖大
（さくらい としひろ）

歴史

全国で最も古い歴史を持つ国立病院の一つです

国立病院機構熊本医療センターの前身は明治４年(1871 年)創立の鎮西鎮台病院で、全国で最も古い歴史を持つ国立病院の一つです。昭和20年厚生省(現厚生労働省)に移管され国立熊本病院となり、さらに平成16年４月に独立行政法人化され国立病院機構熊本医療センターとなりました。

昭和天皇陛下九州行幸の途次、当院行幸＝昭和24年５月29日

熊本医療センターの歴史

明治　４年　８月　鎮西鎮台設置
明治　４年12月　鎮西鎮台病院開設(当院の前身となる病院)
明治　９年10月　神風連の変
明治 10年　２月　西南の役
衛戍病院続いて熊本第一陸軍病院となる
健軍分院、藤崎台分院の他に５ケ所の分院を増設
昭和 19年11月　陸軍看護婦養成所(現:附属看護学校)設置
昭和 20年　８月　健軍分院は閉鎖
昭和 20年12月　厚生省（現:厚生労働省）に移管され、国立熊本病院として発足
昭和 21年　３月　藤崎台分院は、熊本大学医学部附属病院に譲渡
昭和 21年　９月　インターン医師の実地修練病院に指定される
昭和 24年　５月　昭和天皇陛下、当院へ行幸
昭和 33年12月　がん診療センター開設
昭和 43年　４月　インターン医師の実地修練病院から臨床研修指定病院となる
昭和 43年　４月　救急医療センター開設
昭和 47年　６月　血液透析室開設(現：腎センター)
昭和 54年　４月　病院群輪番制病院となる
昭和 55年10月　へき地中核病院の指定
昭和 58年10月　地方腎移植施設の指定
昭和 61年　４月　地域医療研修センター開設
昭和 62年　３月　教育研修棟の開設
平成　４年10月　国際医療協力の推進を目的として、臨床研究部を設置
平成　６年　５月　エイズ拠点病院となる
平成　８年　５月　開放型病院
平成 11年　３月　国際医療協力基幹施設及び政策医療ネットワークの専門医療施設（がん、循環器、精神、感覚器、血液･造血器）となる
平成 12年10月　スエズ運河大学医学部と姉妹施設締結
平成 13年　４月　治験センター開設
平成 14年　４月　地域医療支援病院
平成 14年　５月　広西医科大学附属第一病院と姉妹病院締結
平成 14年　５月　ICU 施設基準取得
平成 15年　８月　救命救急センター設置
平成 16年　３月　長寿医療政策医療ネットワーク基幹医療施設となる
平成 16年　４月　独立行政法人国立病院機構熊本医療センターとなる
平成 18年　４月　熊本大学大学院医学教育部連携講座(博士課程)設置
平成 18年　４月　国際医療福祉大学大学院(修士課程)熊本教室設置
平成 18年　４月　診断群分類別包括評価（DPC）開始
平成 18年　８月　先進医療(骨髄細胞移植による血管新生療法)取得
平成 18年11月　電子カルテシステム導入
平成 20年　２月　地域がん診療連携拠点病院の指定
平成 21年　３月　熊本県災害拠点病院(地域災害医療センター)の指定
平成 21年　９月　新病院開院
平成 21年11月　エジプト・ファイユーム大学病院、タイ・コンケン病院と姉妹病院締結
平成 22年　８月　熊本県地域救急医療体制支援病院の指定
平成 23年　６月　ヘリポート完成、ヘリ救急医療開始
平成 25年　３月　熊本市救急ワークステーションの設置に関する協定締結
平成 26年　３月　最新版「病院機能評価」一般病院２＜3rdG:Ver.1.0＞救急医療機能 V2.0 を取得
平成 27年　３月　熊本県で初となる脳死下臓器提供を行う
平成 28年　３月　当院で２例目となる脳死下臓器提供を行う
平成 28年　４月　平成 28 年熊本地震発災
平成 28年10月　病院シャトルバス運行開始
平成 28年11月　当院で３例目となる脳死下臓器提供を行う
平成 28年12月　病院増改修整備工事着工
平成 31年　１月　病院機能評価更新 一般病院 2<3rd G:ver.2.0> 付加機能 救急医療機能 Ver.2.0
平成 31年　２月　特定行為研修指定指定研修機関の指定
平成 31年　２月　看護師特定行為研修指定研修機関に認定（３区分７行為）
令和　元年11月　JCEP 認定
令和　２年　２月　外来新棟竣工
令和　２年　２月　創立 150 周年記念式典開催
令和　２年　２月　看護師特定行為区分変更及び救急領域パッケージ追加（５区分12行為）
令和　２年　３月　外来新棟運用開始
令和　２年　４月　当院で脳死下臓器提供を実施

名誉院長（7代院長）
宮﨑 久義
（みやざき ひさよし）

名誉院長（8代院長）
池井 聰
（いけい さとし）

名誉院長（9代院長）
河野 文夫
（かわの ふみお）

病棟構成　国立病院機構熊本医療センター病院の階別構成概要

階	面積	病棟名	病床種別等	診療科及び概要
7F	6,042.39㎡	7階北病棟	一般（50 床）	脳神経外科、神経内科、救急科、腫瘍内科
		7階南病棟	精神（50 床）	精神科
		7階東病棟	一般（50 床）	皮膚科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、救急科、放射線科
		7階西病棟	一般（50 床）	消化器内科、感染症
6F	6,070.21㎡	6階北病棟	一般（50 床）	心臓血管外科、循環器内科、CCU（4 床）、血液内科
		6階南病棟	一般（50 床）	血液内科、腫瘍内科　（バイオクリーンルーム 33 床）
		6階東病棟	一般（50 床）	外科
		6階西病棟	一般（50 床）	小児科、糖尿病・内分泌内科、産婦人科、呼吸器内科、総合診療科、麻酔科 救急科、（バイオクリーンルーム 1 床、LDR 1 床）
5F	7,649.02㎡	5階北病棟	一般（50 床）	救命救急センター　ICU（6 床）
		5階南病棟	一般（50 床）	整形外科、泌尿器科、腎臓内科
		手術センター		手術室 10 室
		5階西病棟	一般（50 床）	腎臓内科、泌尿器科、救急科　血液浄化センター（20 床）
4F	9,027.23㎡	外　来		救命救急センター（救急外来）、一般外来、外来化学療法センター、医事 医療相談支援センター（地域医療連携室　がん相談支援室　入院支援室） 院内学級、売店（ATM）、食堂、患者さま図書コーナー
3F	4,061.14㎡	管理部門		医局、検体検査、病理検査、臨床研究部、図書室、病児・病後児保育室、管理部門
2F	4,442.36㎡	共用部門		地域医療研修センター、薬剤部門、中央材料部門
1F	4,399.15㎡	共用部門		歩行者入口、放射線治療室、核医学（RI）、栄養管理部門（調理室）

認定医、専門医教育施設の指定

国立病院機構熊本医療センターは次の学会の認定医、専門医教育施設として指定されています。

日本麻酔科学会／日本血液学会／日本皮膚科学会／日本救急医学会／日本循環器学会
日本形成外科学会／日本集中治療医学会／日本糖尿病学会
この他も多くの学会より指定されております。詳細につきましては当院 HP「病院概要」を
ご参照ください。

附属看護学校

演習風景

国立病院機構熊本医療センター附属看護学校は昭和 19 年の開設以来、総計 2,941 名の看護師を養成し、熊本はもとより全国の医療を支えてきています。当看護学校では、「責任・秩序・融和」という教育理念のもとに、心優しい看護師、良質で安全な医療を提供できる看護師の育成を心がけて教育しています。学生は熊本城周辺のすばらしい景観の中、いきいきと学習に励んでいます。

年間行事

「新任職員宿泊研修」
二日目「患者接遇マナー研修」の様子

全職種「新採用者オリエンテーション」

「新人看護師リフレッシュ宿泊研修」
開催

「精霊流し」
看護学生ボランティア
によるお手伝い

「新町地蔵祭り」
看護学生ボランティアによる
販売手伝いと「よさこい踊り」
の披露で大盛況

第１回 アドバイザリー・コミティ

第１回「開放型病院連絡会」開催

4月

新採用者・転入者
オリエンテーション

新任職員宿泊研修①

5月

全職種による「職員合同研修会」

6月

新人看護師
リフレッシュ宿泊研修

職員合同研修会
新任職員宿泊研修②

7月

看護学生ボランティア
「精霊流し」
「新町地蔵祭り」

第１回
アドバイザリー・コミティ

モニター会議

「モニター会議」

8月

ナースのための
エンド・オブ・
ライフ・ケアセミナー
（ELNEC-J）

「ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケアセミナー
（ELNEC-J）」県内唯一開催

9月

第１回
開放型
病院連絡会

開かれた病院を目指して

当院では「地域に開かれた病院」の一環として、様々な取組みを行っています

「市民公開講座」

地域の一般市民の方に向けて、医療の正しい知識をお伝えし、豊かな毎日を送っていただきたいという思いから市民公開講座を開始しました。毎月テーマを定めて（年間で全 12 回）無料で講座を開催しています。講座は事前の申し込みが不必要であり受講したいと思った時に気軽に受講することができます。現在まで約 3,000 人の方々が受講されました。

2018 年４月開催
市民公開講座：課外授業「転びにくい身体をつくる『ちょいトレ』」の１コマ

「出前講座」

地域の皆様の健康づくり支援を目的として地域に出向いて講座を開催しています。ケアセンター、市役所、消防本部、教育委員会、高等学校、PTA、老人会などの自治体や団体からお申し込みいただき、2014 年から現在まで、計 34 回の講座を行っています。

全職種参加行事はチーム医療の原点です

平成 10 年より行われている
「熊本市災害医療福祉訓練」へ参加
災害拠点病院としての受け入れ体制
をシミュレーション

九州グループ主催
「救急看護
エキスパートナース研修」

「熊本医療センター医学会」
毎年開催　各職種より症例報告、
臨床研究報告等およそ 40 題発表
写真は形成外科部長 大島秀男

NHK「**チコちゃんに叱られる！**」に
形成外科部長 大島秀男が出演

「おじいちゃんの眉毛が長いのはなぜ？ ほか」
2018 年 9 月 7 日・8 日

「熊本城マラソン」
当院約 50 名が救護班ボランティア
に参加当院職員もフルマラソンに多
数挑戦！

「防火訓練」
防火体制の確立目的
のため毎年開催

10月

熊本市災害医療福祉訓練

「ボランティア総会」

全国より参加
九州グループ主催
「院内感染対策研修会」

11月

院内感染対策研修会
ボランティア総会

二の丸会

旧職員と現職員の親睦を図る
「二の丸会」

12月

救急看護
エキスパートナース研修

1月

新年会

院内学会

「合同新年会」開催
全職種参加の当院恒例
「アトラクション」大盛り上がり！

2月

QC 活動発表会

クリティカルパス
実践研修会

第２回開放型病院連絡会

「熊本城マラソン」
救護班活動

第２回「開放型病院連絡会開催」

3月

消防訓練

第２回
アドバイザリー・
コミティ

福利厚生　安心して働くことができる病院を目指します

子育て支援事業

院内保育園「二の丸保育園」

病院敷地内に保育園が併設されており、職員が安心して働くことができます。保育園では「育つ力」を育てるという基本保育方針を元に、安全と信頼に満ちた環境の中、愛情をもって保育を行います。裸足保育、健康給食、他

病児・病後児保育室「こぐま」

平成 26 年 12 月、院内に開設。
子どもが病気になると、保育園での保育が困難となり、勤務に出られないことが度々発生します。そんな時に安心して働くことができるようにと開設されました。

宿舎支援事業

「看護師マンション」

平成 26 年 5 月に看護師
宿舎が完成しました。

「研修医宿舎Ａ」

「研修医宿舎Ｂ」

桜町バスターミナル

徒歩10分

都市バス

島1・島2	荒尾橋行	国立病院前下車
島3	上熊本営業所行	国立病院前下車

JR熊本駅

熊本都市バス　第一環状線

うるさんまち（蔚山町）下車　徒歩10分

市内電車　健軍行

熊本城前下車　　徒歩10分

シャトルバス

桜町バスターミナル行直行便

熊本空港

桜町バスターミナル行バス（50分）

タクシー（40分）

シャトルバス時刻表　平土日運行　※年末年始は運休いたします

A 水道町（3号線沿い）
B 通町筋
C 市役所前
D 桜町バスターミナル（病院行き⑲、水道町行き㉖）
E 国立病院前　※病院発のみ
F 国立病院構内（正面玄関前）

水道町発 → 国立病院行き（桜町バスターミナル経由）運行時刻表

A 水道町（3号線沿い）発	※通町筋始発	8:28	9:28	10:28	11:18	13:48	14:48
B 通町筋	7:40	8:30	9:30	10:30	11:20	13:50	14:50
C 市役所前	7:41	8:31	9:31	10:31	11:21	13:51	14:51
D 桜町バスターミナル⑲番のりば	7:47	8:37	9:37	10:37	11:27	13:57	14:57
F 国立病院構内 着	7:53	8:43	9:43	10:43	11:33	14:03	15:03

国立病院発 → 通町筋、水道町方面行き（桜町バスターミナル経由）運行時刻表

F 国立病院構内 発	9:10	10:10	11:00	12:00	13:30	14:30	15:30	16:30	18:00
E 国立病院前	9:11	10:11	11:01	12:01	13:31	14:31	15:31	16:31	18:01
D 桜町バスターミナル㉖番のりば	9:16	10:16	11:06	12:06	13:36	14:36	15:36	16:36	18:06
B 市役所前	9:18	10:18	11:08	12:08	13:38	14:38	15:38	16:38	18:08
C 通町筋	9:21	10:21	11:11	12:11	13:41	14:41	15:41	16:41	18:11
A 水道町（電車通り沿い）着	9:25	10:25	11:15	12:15	13:45	14:45	15:45	16:45	18:15

National Hospital Organization
Kumamoto Medical Center

〒860−0008　熊本市中央区二の丸1番5号
TEL 096−353−6501（代）FAX 096−325−2519
URL https://kumamoto.hosp.go.jp